



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	雜報
Citation	北海道帝國大學法經會法經會論叢, 2, 301-303
Issue Date	1934-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/10614
Type	other
File Information	2_p301-303.pdf



法經會記事

本會は昭和三年十二月北海道帝國大學の職員にして法律經濟に關する科學を專攻する者十一名によつて創立され、三名の名譽會員を推薦し、爾後毎月例會を開催することとして同月二十三日第一回の研究報告があつた。爾來昭和八年十二月迄下記の如く四十一回の例會を開いてゐる。昭和五年十二月に到り研究發表機關として「法經會論叢」を發行する計畫成り昭和六年四月第一號を發行、九氏の論文を掲載することを得て之を名譽會員佐藤男爵に捧げた。其後農業經濟學教室を中心として、名譽會員高岡博士の在職三十五年紀念論文集發行の議起り、二十三篇の論文を得て「農政と經濟」が昭和七年九月に出版されたが法經會々員九氏が之に執筆してゐる。爾來法經會論叢の續刊を希望しつつも、經濟上の困難を最も重なる理由として今日まで發刊し得なかつたことを遺憾に思ふ。然し今後は頁數を減じても年二回は刊行したいと思つて之が爲めの努力を惜しまないつもりである。

左に例會に於ける研究發表の論題其他を掲げる。發表の順位は大体抽籤を以て定めてゐる。

昭和三年

法經會記事

第一回 十二月二十三日 渡邊侃「資本主義經濟と勞作主義經濟」

昭和四年

第二回 一月十九日 荒又操「農業生産の彈力性に就いて」

第三回 三月二日 根本通美「智能權に就いて」

第四回 四月二十日 今田清二「經濟錯覺の認識」

第五回 五月十八日 土屋四郎「美術品の公賣に於ける美術家の追及權に就いて」

第六回 六月二十一日 (カメラ學會と共催し) 紀念館に於て公開講演會開催) 和田禎純「支那の現状に直面して黎明期にあるメキシコを觀る」森本厚吉「世界經濟の動き」

第七回 七月十八日 野間海造氏(東大助教當時本學授業囑託)「米穀法の問題と粃」

第八回 九月二十一日 中島九郎 [Hearnshaw, Survey of Socialism の一節社會主義の利弊 (Merit and Defect)]

第九回 十月二十六日 和田禎純「米國の南米に向つての活躍」

第十回 十一月十六日 佐藤昌彦「憲法制定史上の超然主義」

第十一回 十二月二十日 上原徹三郎「戦後獨逸に於ける内國植民事業と其成績」(「農政と經濟」に掲載)

三〇一

(今日迄會員十一名のところ小林巳智次氏及南鐵藏氏入會して計十三名となる。)

昭和五年

第十二回 一月十八日 早川三代治「經濟原論に於ける數學的方法に就いて」

第十三回 二月十五日 高倉新一郎「農業の起源」(H. Peake 著)

第十四回 三月二十二日 渡邊侃「平均價值と限界價值に就いて」

第十五回 四月二十一日 南鐵藏「明治維新前に於ける北海道産業政策(前編)」「前」松前藩の産業政策(第一報)」「(法經會論叢第一號に掲載)

第十六回 五月十七日 小林巳智次「歐米視察談」

第十七回 六月二十一日 上原轍三郎「日本に於ける自作農制定維持問題の經過」

第十八回 九月二十日 今田清二「Berings 海の日本漁業」

(松田武雄氏歸學して會員となり會員數十四名を算し最初推薦せる名譽會員三博士と共に今日に至る)

第十九回 十一月二十二日 松田武雄「最近北米 North

Carolina 州に於て行はれたる農業調査に就いて」

第二十回 十二月二十日 早川三代治「Pareto の常數」

に就いて」

昭和六年

第二十一回 一月十七日 中島九郎「新歐羅巴の農業問題」

第二十二回 二月二十一日 佐藤昌彦「損害賠償請求事件(判例批評)」和田禎純「中央歐羅巴國際事情の一考察」

第二十三回 三月二十日 高倉新一郎「前松前藩の舊土人政策」

第二十四回 四月二十五日 佐藤昌彦「清算法人の性質」(法經會論叢第一號に掲載)

第二十五回 五月十六日 荒又操「米の品質と格差との關係」(「農政と經濟」に掲載)

第二十六回 六月二十七日 渡邊侃「Charles Gide: Communist and Cooperative Colonies」

第二十七回 十月三十一日 松田武雄「農業段階に就いて」(「農業段階序説」と題して「農政と經濟」に掲載)

第二十八回 十一月二日 和田禎純「滿蒙問題(時局と國際聯盟)」(「滿蒙問題に就いて討論す」)

第二十九回 十二月十九日 渡邊侃「北海道農産物價格論」(「農業經濟研究」第八卷第三號に掲載)

昭和七年

第三十回 三月十日 渡邊侃「滿蒙新國家の農業問題」特

別講演畑長松氏（北海道廳技師）「民有未墾地開發問題」

第三十一回 五月十四日 佐藤昌彦「米國視察談」

第三十二回 六月十八日 高倉新一郎「アイヌの農業」

（農業經濟研究第九卷第二號に掲載）

第三十三回 七月十六日 南鐵藏「前松前藩の交通制度（旅人改と徴税）」（一部本輯に掲載）

第三十四回 十月二十二日 上原轍三郎「獨逸内國植民事

業恐慌下の最近の事情」土屋四郎「フランス視察談」

第三十五回 十一月二十六日 小林巳智次「中華民國の民法に就いて」

昭和八年

第三十六回 一月二十八日 早川三代治「本邦山林所得の

分配に就いて」

第三十七回 二月二十五日 今田清二「資本的水産業の諸

問題」

第三十八回 五月二十七日 和田頑純「歐洲の現狀勢に就

いて」

第三十九回 六月二十四日 土屋四郎「昨年八月ヘーグに

於ける萬國比較法會議の業績に就いて」

第四十回 十月十四日 中島九郎「樺太の拓殖及農業に就

いて」（法經會論叢第二輯に掲載）

第四十一回 十二月二日 松田武雄「滿洲の農業經濟及び農業政策」

以上の外昭和五年十二月、昭和六年一月、同年十二月に三回臨時談話會を開催し、小林、荒又、渡邊、高倉四氏の研究書の紹介及び批評があり、又今田氏は「日ソ漁業競争と勞働」と題して語られた。其後談話會は中絶の儘になつてゐる。

本誌表題の文字は名譽會員佐藤男爵の揮毫を煩はしたものである。

尙本誌既刊の分は第一號とあつたが便宜上以後輯を以て數へることとし本號は之を第二輯とした。又本輯の掲載順序は大體に於て原稿提出順に據つたのである。

本論集は一昨年三月まで本學に於て經濟學及財政學を擔任せられてゐた森本博士に之を獻呈するものである。博士は當時既に在職二十五年に達せられてゐたので、われわれは其意義に於ける祝賀論文集を計畫すべきところ荏苒今日に及んだことは、特に博士の御諒恕を乞はなければならぬ。

（編輯者識）